

平成 15 年度 愛知県内一斉調査報告

(学校における積極的授業参加に向けて)

愛知県学校薬剤師会理事 樋口 光 司

学校薬剤師の活動は、将来を担う子ども達の健康づくりを目標に、積極的に教育の場に参加することを求められています。昨今、学校薬剤師への社会的要求が大きく変わってきていると思われまます。15年5月には健康増進法が施行され、受動喫煙防止がはっきり謳われました。タバコの害を叫び、禁煙を支援する薬剤師にとっては力強い追い風となっています。また、学校現場からの要請も確実に増加しております。

他県の現状を見ますと、静岡県の学校薬剤師全員による「薬学講座」では、毎年16万名におよぶ県民が受講しているのをはじめ、長野県では200回、2万名もの県民に対し講演を行っております。広島県、宮城県では、特に禁煙支援のための薬剤師を認定し、名簿を公開して県民の禁煙に協力しています。愛知県の現状は決して自慢出来るものではありません。

しかし、学校敷地内禁煙に関しては、小牧市ですでに実施されています。名古屋市立および愛知県立学校については、16年4月から実施されます。これは全国で4番目ということですので。学校薬剤師会が率先して教育委員会に対し「学校敷地内禁煙」の要望書を提出したのも、早く決定された要因のひとつと考えています。

学校へ出向いて授業をするには、その質も当然問われてきます。より多くの児童・生徒により回数多くすれば良いというものではないはずです。

従来の喫煙防止教育は「知識中心型」あるいは「脅し型」の教育でした。子どもたちが喫煙の有害性に気づけば、喫煙に対する否定的態度を形成し、合理的な意志決定を下すだろうというものでした。脅し型の喫煙防止教育は、知識中心型の喫煙防止教育よりも、動物実験など、よりインパクトのある手法を用いて、タバコを吸うといかに悲惨な結果が生じるかを印象づけて、喫煙開始を防止しようとしてきました。

これらの喫煙防止教育が十分な効果が得られなかった最大の理由は、知識を与え、態度を変えることは、青少年の喫煙開始に関わる多くの要因のうちのごく一部に働きかけているに過ぎなかったからです。効果的な喫煙防止プログラムを開発するためには、もっと広い視点から青少年の喫煙開始に関わる要因を理解する必要があったのです。

愛知県学校薬剤師会としましては、今後、ライフスキル(生きる心の能力)の形成に焦点を当てた喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育も踏まえて学校での授業に参加していきたいと考えております。

JKYB 研究会編著：「ライフスキル(生きる力)を育む喫煙防止教育」 東山書房 ¥2,310

平成 15 年度 愛知県学校薬剤師会実態調査

愛知県薬剤師会 学校薬剤師部会

愛 知 県 学 校 薬 剤 師 会

近年、薬剤師が薬局から外へ出て「くすりに関する話」等をする機会が増えてまいりました。学校薬剤師にも学校において「薬物乱用防止」等の話をしてもらいたいとの要請が出てきております。

まずは、会員の先生方にご協力いただき、現状を把握して今後の方針の参考とし、学校現場の気運を大切に、積極的に対応して行きたいと考えております。なお、愛知県学校薬剤師会へは平成 15 年 8 月 31 日までに着くように、支部長さんを通じてご提出下さいますようよろしくお願い致します。

(今年 10 月 26 日愛知県で行われる全国薬物乱用防止研修会の資料として必要な為)

1. 最近、薬物乱用防止、薬の使い方、タバコ・酒、シックハウス等の問題に関して学校との間で話題になりましたか？
 1. はい 42.5%
 2. いいえ 57.5%
2. 昨年、学校で上記問題等の話を講師としてしましたか？
 1. はい 11.6%
 2. いいえ 88.4%
3. 学校で講師として話をする場合、上記問題のどの分野が得意ですか？(複数 可)
 - 1.薬物乱用 18.1%
 - 2.薬の使い方 49.6%
 - 3.タバコ・酒 12.9%
 - 4.シックハウス等 8.2%
 5. その他 _____ 11.1%
4. 学校から講師として要請された場合、どうされますか？
 1. 積極的に受ける 26.6%
 2. マニュアル等が整備されていて、研修をすれば受ける 55.6%
 3. どんなことがあっても講師は受けない 7.2%
 4. その他 (84名：時間31名 36.9% 自信11名 13.1%) 9.3%
5. 学校薬剤師会が用意した研修会への参加は？
 1. 積極的に参加する 35.5%
 2. 内容によって参加する 60.8%
 3. 不参加 3.6%
6. 講師、研修会等に関してご意見をお書き下さい。

学校名 _____ 他 _____ 校、支部名 _____ 薬剤師名 _____

平成 1 5 年度 県内一斉調査集計表

調査票 総数 (9 4 5 枚 名古屋 : 3 1 5 枚 尾張 : 3 5 8 枚 三河 : 2 7 2 枚)
(回収率 82.7%)

	名古屋	尾 張	三 河
問 1) 1	1 4 1	1 4 2	1 1 5
2	1 7 0	2 1 2	1 5 7
問 2) 1	4 8	3 7	2 4
2	2 6 7	3 1 6	2 4 8
問 3) 1	6 7	6 9	5 8
2	1 7 1	2 0 9	1 5 1
3	5 2	4 2	4 4
4	3 1	2 9	2 8
5	4 8	3 4	3 7
問 4) 1	7 7	9 8	7 3
2	1 8 5	1 7 5	1 5 9
3	2 3	3 4	1 0
4	3 3	4 0	2 6
問 5) 1	1 2 8	1 0 3	1 0 2
2	1 7 6	2 3 1	1 6 3
3	1 1	1 7	6
問 6)			

ライフスキルの形成に焦点を当てた喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（Jessor.R）

青少年期に急増する喫煙、飲酒、薬物乱用などの危険行動は、不安に対処する、仲間から認められる、自分には生きる価値や能力があると感じるといった、青少年にとって基本的な要求を満たすための行動であり、彼らにはそうした行動を取る必要性や動機がある。例えば、喫煙、飲酒、薬物乱用をすることによってそうした基本的要求を満たすことができると感じた青少年は、遠い将来の危険を心配するよりは、現在の差し迫った要求を満たすために、喫煙、飲酒、薬物乱用を続ける方を選ぶのである。

このような動機で喫煙、飲酒、薬物乱用を始めた青少年に対して、これらの薬物の有害性を強調してもさほど意味はない。また仲間からの誘いを拒否するスキルを教えても、彼らはそうしたスキルを実際の場面では使おうとはしないであろう。彼らが喫煙、飲酒、薬物乱用などの危険行動を避けるために必要なことは、自分の価値や能力に対する自信（セルフエスティーム）を育て、日常生活の中で生じるストレスや不安、人間関係などの問題を、自分にとっても周囲の人々にとっても有益なやり方で解決するために有用な心理社会的能力、すなわちライフスキルを形成することである。

ライフスキル教育（定義）

- ・ 「複雑で困難な問題に満ちた社会の中で成功し、直面する多くの問題を効果的に取り扱うのに必要とされる一般的な個人および社会的スキル。」
(コーネル医科大学ポドヴィン)
- ・ 「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会的能力。」
(WHO)
- ・ セルフエスティームの形成スキル、目標設定スキル、意志決定スキル、対人関係(社会的)スキル、ストレスマネジメントスキルを重要なライフスキルとみなす。

ライフスキルの3つのポイント

「学習や経験によって獲得可能な能力」 (ロールプレイを重視)

「さまざまな問題や状況に応用可能性が高い、一般的・基礎的な能力」

「心理社会能力」

セルフ・エスティーム（健全な自尊心）

- ・ 「自尊心」「自己肯定感」「自尊感情」
- ・ ありのままの自分を好きになること。
- ・ 自分自信が大切な価値ある存在であると思えること。
- ・ 自分にある程度自信をもって思考や行動ができるという心の状態にあること。
- ・ 自分という存在をまず肯定し、大切に思えることが、他者との友好的関係を築き、社会へ関わる気持ちを育む基本である。

セルフ・エスティームを考える（大阪YWCA教育総合研究所 金香百合）

「あなたは自分のことが好きですか？」 「心の栄養足りてますか？」

- ・ 自分のことを大切にしてもらっていると感じていますか？
- ・ 自分は誰かに暖かい関心に向けてもらっていると感じますか？
- ・ 自分が落ち込んだ時、暖かいまなざしをもらっていると感じますか？
- ・ 自分を認めてくれる人がいると感じますか？
- ・ 自分を誉めてくれる人がいると感じますか？
- ・ 自分が失敗するときを含めて、あるがままに受け入れてくれる人がいると感じますか？
- ・ 自分はこれらのことをひっくるめて、自分は生まれてきてよかった、なぜなら、誰かに愛してもらっているから、と感じていますか？

セルフ・エスティームとは自分のことを大事だというだけでなく、人のことも大事だと思える感情。

「聴く」 ~5つのポイント~

相手に関心を持つ

うなずきながら聴く

共感しながら聴く

聴いたことを大事に受けとめ、その秘密を守る

相手が沈黙したら沈黙に寄り添う

「高校生の未来意識に関する調査」

日・米・中比較 2002年5月 （日本青少年研究所）

- ・ 「自分はダメな人間だと思ふことがある」
日本 73% 米 48.3% 中 36.9%
- ・ 「将来のことをしっかり考えるべきだ」
日本 29% 米 42.6% 中 55.8%

「自分を本当に大切に思う。」その心が隣の人存在を認める心に広がり、社会における複雑で困難な問題を解く力につながり、青少年期に急増する危険行動を思い止まらせる大きな要因となるものと思われます。

ライフスキルを育む教育は、単に、薬物乱用防止だけに止まらず、日常生活の中での諸問題に対して有効と考えられます。

私達、学校薬剤師としましては、児童・生徒に対し少しでも「自分を本当に大切に思う心」を育んでもらえるようにお手伝い出来れば、これほど嬉しい事は無いのではないのでしょうか。